



日本キリスト教団  
三軒茶屋教会

# 三軒茶屋 教会通り

〒154-0024  
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5  
TEL/FAX: (03)3418-4933  
編集/発行: 広報部

第2号 1998年12月発行

## この方こそ主メシア



牧師 陣内厚生

今年、一九九八年のクリスマスを迎えるにあたって、お喜びを申し上げます。クリスマス喜びは何といつても救い主イエス・キリストの降誕を記念し、祝うことにあるのですが、そこにはイエス・キリストがだれであるか、何をされた方であるかを知ることが大切なことだと言えましょう。

ルカ福音書二章一〇一―一節で、医者ルカはこう述べています。へ天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」と。メシアとはヘブル語での呼び方、ギリシャ語に訳すとキリスト、その意味を日本語で言えば救い主となるわけです。ヘブル語でもギリシャ語でも、「救う」という語は「健康にする」という意味を持っています。従って、救い主とは医者と訳しても言いすぎではありません。イエスが、「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。」(マルコ二・一七)と言われたのも、救い主を医

者に譬えた表現です。

現代は病んでいる時代だと言われます。人間にはさまざまな病いがありますが、病院では絶対になおらない人間の病い、すなわち人間そのものの、人間の魂の病いが横たわっているのです。私たちの魂は、澄みきった青空のように何もかも明るみの中で見渡せるような状況ではありません。その奥底には言いしれぬ不安や恐怖の念が漂い、どのように生きていったらよいか分からないのです。この世の価値観が、人間の利己主義を加速させ、その結果、人間がなりふりかまわぬ欲望に溺れ、自らの尊厳を軽々しく放棄してしまっているのが、現代の病的様相です。

イエスが私たちの世に誕生されたというクリスマス由来事は、真夜中、羊飼いらに語られた天使の言葉に、その象徴を見ることができるところでしょう。「恐れるな」との呼びかけから始まる言葉が、私たちの魂の根底をゆるがし、何かに気付かせてくれるのです。それは第一に、今は深い闇に包まれている時であり、私たちはその中で何の希望も持ち合わ

せず、惰性でしか生きていないという現実を認識させられることです。聖書では闇と対照的に光を与えていますが、闇の中でしか養めくことを知らなかった人間にとって、この世には希望があることを、同時に示しています。この希望は言うまでもなくイエス・キリストによるものです。

第二に、天使の言葉は、この世で生きる私たちが、一体何に恐れて生きてきたのかということに気付かされます。人間は自らのつくったさまざまな権力や霊力、悪しき習慣や価値観に抱えられて生きてきました。それらは、救い主を知らなかった時にはどんなに恐ろしく、不安を覚えるものであったかと思えば、今や私たちは、どのようなものに対しても、何ら恐れる必要はないのだという確信に達し得るのです。つまり、本当に恐れねばならない存在は何なのかを知ることにもなるのです。

第三に、このメッセージは「民全体に」と言い、全人類が対象となっています。今日、クリスマスは全世界的な祝祭日として人びとの生活の